

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500328		
法人名	株式会社 ジョウジマ		
事業所名	グループホーム伊万里		
所在地	佐賀県伊万里市二里町八谷瀬781-1		
自己評価作成日	平成26年8月8日	評価結果市町村受理日	平成26年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成26年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方がのびのびと生活して頂けるよう、施設をせず開放的な環境づくりをしています。ご家族の面会も多くあり、夏祭りや地域のイベントへの参加やドライブ・買い物など外部との関わりも絶やさないように努めています。防災面にも力を入れており、年2回の日中・夜間の防火訓練、原発避難訓練に加え、毎月自主避難訓練をおこなっています。地域の防災リーダー研修への参加や地域の高齢者の避難場所にもなっており、自施設に加え、地域の防災にも目を向けるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

有田川が流れ、田園が広がり四季を感じる、静かな住宅街の中にグループホームがある。あなたがあなたらしく、ひとり一人が地域の中で、土と水と空気と人とふれあい、「そのひとらしく生きていただく」の理念を実践する為に、常に問題意識を持ち、日々取り組まれている。地域との防災による連携を図り、行事にも参加するなど、地域との交流と防災に力を入れている。また、馴染みの場所、関係性が継続できるように入居者の意向、希望を尊重した支援が行われ、その人らしく生きていただくよう取り組まれているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	かえで棟	あかり棟			かえで棟	あかり棟	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(かえで棟)	自己評価(あかり棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『一人一人が地域の中で土と水と空気と人と触れ合い、その人らしく生きていただく』という理念の下、日々の業務に携わっている。毎朝、朝礼にて呼称をしている。	『一人一人が地域の中で土と水と空気と人と触れ合い、その人らしく生きていただく』という理念の下、日々の業務に携わっている。毎朝、朝礼にて呼称をしている。	毎年目標を設定し、理念と一緒に各ユニットに掲示し、朝礼時の唱和や会議、日々の業務の中で振り返りが行われ、理念を共有し実践に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にも参加をしたり、グループホームの行事に地域の方にも参加を促すなどつながりを持ち、交流している。	地域の行事にも参加をしたり、グループホームの行事に地域の方にも参加を促すなどつながりを持ち、交流している。	地域の除草作業や地区夏祭りに参加されている。ホームでの夏祭りにも地域から参加してもらったり、野菜の差し入れや、散歩の途中に立ち寄りられたり、日頃より交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する勉強会を開催し、行政や地域の方にも参加を呼びかけ、理解を深めていただく動きをとっている。また、災害時の避難場所の設定もしており、地域の方の受け入れ態勢も取っている。	認知症に関する勉強会を開催し、行政や地域の方にも参加を呼びかけ、理解を深めていただく動きをとっている。また、災害時の避難場所の設定もしており、地域の方の受け入れ態勢も取っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を実施しており、利用者の状況や行事報告、事業内容の確認などをおこない、ご家族や運営委員の方々とも意見交換をし、今後のサービスへとつなげている。	年6回会議を実施しており、利用者の状況や行事報告、事業内容の確認などをおこない、ご家族や運営委員の方々とも意見交換をし、今後のサービスへとつなげている。	消防訓練や行事に合わせて、年6回開催されている。ホームの状況報告や事例発表、地域行事等の情報交換が行われ、活発な意見が出ている。それをサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で開催されているコミュニティーケア会議などに参加し、地域や行政の担当者と情報交換をおこない、協力体制をとっている。	市で開催されているコミュニティーケア会議などに参加し、地域や行政の担当者と情報交換をおこない、協力体制をとっている。	市主催の会議に参加し、そこで情報交換や相談、報告が定期的に行われている。協力関係は構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成しており、研修をおこなうなど知識を深めている。日中は、施錠をせず開放的にしているが、危険が伴うような場合は、同意をもらい、安全ベルトの着用などを実施する場合もある。	身体拘束に関するマニュアルを作成しており、研修をおこなうなど知識を深めている。日中は、施錠をせず開放的にしているが、危険が伴うような場合は、同意をもらい、安全ベルトの着用などを実施する場合もある。	ホームは、カーテンや玄関扉も開けられており、開放的な雰囲気がある。身体拘束に関する研修が行われ、理解できているが、車椅子からのずり落ち防止の為に、安全ベルトの着用が行われている。家族への説明と同意を得ているが、解除に向けた検討記録の作成は十分でない。	拘束解除に向けた検討会の記録を作成し、引き続き、拘束に頼らないケアの取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを作成し、研修をおこなっている。また、事業所内はもちろん、事業所外でも虐待がないかに注意をしている。	虐待防止に関するマニュアルを作成し、研修をおこなっている。また、事業所内はもちろん、事業所外でも虐待がないかに注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(かえで棟)	自己評価(あかり棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所の利用者にも成年後見制度を利用されている方もおり、制度に関する理解を学ぶ機会がある。利用者の状況に応じて制度の利用を支援する場合がある。	当事業所の利用者にも成年後見制度を利用されている方もおり、制度に関する理解を学ぶ機会がある。利用者の状況に応じて制度の利用を支援する場合がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解除、改定など契約に関することは入居時などに利用者やご家族に説明し、理解と納得をえている。その際、心配な点や疑問点をお聞きし、理解していただいている。	契約や解除、改定など契約に関することは入居時などに利用者やご家族に説明し、理解と納得をえている。その際、心配な点や疑問点をお聞きし、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ロビーに意見箱を設置しており、随時、意見や苦情・要望などを受け付けている。また、面会時などにお話する際、意見や要望をお聞きし、今後の運営につなげている。	玄関ロビーに意見箱を設置しており、随時、意見や苦情・要望などを受け付けている。また、面会時などにお話する際、意見や要望をお聞きし、今後の運営につなげている。	意見箱を設置し、面会時に状況報告を行いながら、そこで出た意見や要望を運営に反映されている。しかし、十分な意見や要望の把握とまでは、至っていない。	家族が集まりやすい行事を企画するなど、意見・要望を得る機会や、事業所と家族の関係が更に深まる関係作りに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や研修会、日々の業務の中でも職員の意見を聞き、管理者の会議に議題として取り上げ、職員の意見を運営や業務に生かすように努めている。	毎月のスタッフ会議や研修会、日々の業務の中でも職員の意見を聞き、管理者の会議に議題として取り上げ、職員の意見を運営や業務に生かすように努めている。	職員専用の意見箱が設置されている。毎月の会議や合同会議、業務の中で個別に対応し、そこで出た意見を運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務態度や実績を把握し、評価をおこない昇給や福利厚生の実績につなげている。	職員個々の勤務態度や実績を把握し、評価をおこない昇給や福利厚生の実績につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修はもちろん、職員個々のレベルに合わせた外部の研修にも参加をし、職員教育に努めている。	事業所内の研修はもちろん、職員個々のレベルに合わせた外部の研修にも参加をし、職員教育に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の病院、他の介護施設に研修の案内を差し上げ、外部から講師を呼んでの研修会を開催したり、外部研修会にも参加するなど意見・情報交換ができています。	外部研修や他事業所も交えた会議に参加をしたり、他事業所を見学に行くなど交流を持ち、情報交換・意見交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(かえで棟)	自己評価(あかり棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人やご家族、担当ケアマネに情報をもらい、本人の意向や困っていることなどの把握に努めている。情報をもとに安心できる環境や関係作りに努めている。	利用者本人やご家族、担当ケアマネに情報をもらい、本人の意向や困っていることなどの把握に努めている。情報をもとに安心できる環境や関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や担当ケアマネも交え、カンファレンスをおこない、ご家族の意向や不安点・疑問点を聞く機会をもち、信頼関係作りに努めている。	ご家族や担当ケアマネも交え、カンファレンスをおこない、ご家族の意向や不安点・疑問点を聞く機会をもち、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居一週間は体験入居とし、他サービスの利用も考慮しながら、本人やご家族の意向などを聞き、本契約をとっている。	入居一週間は体験入居とし、他サービスの利用も考慮しながら、本人やご家族の意向などを聞き、本契約をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物、料理の下ごしらえ、盛り付け、掃除に洗濯物たたみ等、出来るだけ職員と一緒にすることで個人のやりがいや役割を見つけてもらい、食事と一緒に食べ、共同生活の関係が築かれている。	利用者の力が発揮できる環境づくりをし、日常生活を共にすることで職員と利用者はお互いに助け合い、同等の関係であるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会も随時受け付けており、状態報告や情報交換をし、情報を共有することで利用者をご家族と共に支える関係作りに努めている。遠方のご家族には、近況を連絡している。	ご家族の面会も随時受け付けており、状態報告や情報交換をし、情報を共有することで利用者をご家族と共に支える関係作りに努めている。遠方のご家族には、近況を連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日、自分のお店に帰りたい方に対し、出来るだけ時間を決めてお連れするようにし、馴染みの場所や人との関係が途切れない様に支援している。他の方も同様にお連れすることが出来ている。	面会や外出も随時受け付けており、これまでの慣れ親しんだ関係や場所、人との絆が途切れないように支援している。かかりつけの病院なども継続してお連れしている。	家族の協力で墓参りや、近所のスーパーに買い物、馴染みの床屋で髪を切ってもらうなど、入居者の要望に添えるように支援されている。来訪者の方には、面会時間は設けず、自由に過ごしてもらえるよう雰囲気作りを行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同スペース(リビング)での会話が弾む様に職員が援助し、もしトラブルが起きそうな時は職員が、お互い傷つからない様に配慮しながら、中に入っている。	利用者1人1人の認知症の状況や性格なども考慮し、座席の配置や間を取り持つなど関わり合いが持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(かえで棟)	自己評価(あかり棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで契約を更新できない場合なども、その後の生活のマネジメント等を外部に依頼するなどの支援を行っている。また、契約終了後も随時、相談は受け付けている。	長期入院などで契約を更新できない場合なども、その後の生活のマネジメント等を外部に依頼するなどの支援を行っている。また、契約終了後も随時、相談は受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報や本人・ご家族との会話の中で思いや希望を聞き、意向に沿えるように努めている。認知症により、希望が言えない方には、生活歴などを考慮し、本人の立場に立って考えるようにしている。	入居時の情報や本人・ご家族との会話の中で思いや希望を聞き、意向に沿えるように努めている。認知症により、希望が言えない方には、生活歴などを考慮し、本人の立場に立って考えるようにしている。	日常会話やしぐさ、表情をみながら、入居者の意向を拾い上げている。また、申し送りノートを活用し、全職員で共有しながら意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでの経過などの情報を、本人や家族、担当のケアマネ等に尋ね、把握に努めている。	生活歴やこれまでの経過などの情報を、本人や家族、担当のケアマネ等に尋ね、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人1人に対して、1日の過ごし方の経過を記録に残し、それをもとに、心身状況や残存機能、排泄状況などの把握に努めている。	利用者1人1人に対して、1日の過ごし方の経過を記録に残し、それをもとに、心身状況や残存機能、排泄状況などの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状や家族の意見、関係機関の情報などを取り入れ計画を作成している。3か月おきにユニットスタッフ全員でカンファレンスをおこない、計画の見直しをおこなっている。	本人の現状や家族の意見、関係機関の情報などを取り入れ計画を作成している。3か月おきにユニットスタッフ全員でカンファレンスをおこない、計画の見直しをおこなっている。	カンファレンスで職員全員からの意見を基に、現状に即した介護計画を作成されている。作成後は家族へ説明しているが、十分な説明とはなっていない面もある。計画書については、第2表のみが更新されている。	必要な書類の整備を行い、家族に対して理解、納得できるような計画の説明に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の個別記録やケアプランのチェックを毎日行い、1ヶ月のまとめや反省をし、プランの見直し、気づきは申し送りノートに書くことで、情報を共有できている。	利用者1人1人の個別記録や介護記録を作成しており、状況や気づきを記入している。それを元に計画の見直しや情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族の代行で入院時の洗濯を請け負ったり、通院介助支援など日々の生活支援のほか、対応可能な範囲でサービスに取り組んでいる。	遠方の家族の代行で入院時の洗濯を請け負ったり、通院介助支援など日々の生活支援のほか、対応可能な範囲でサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(かえで棟)	自己評価(あかり棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや消防団にも協力してもらい、地域の行事参加や防災の連携などの支援を得ている。	地域のボランティアや消防団にも協力してもらい、地域の行事参加や防災の連携などの支援を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、これまでのかかりつけ病院を継続して通院介助している。それ以外はグループホームの連携医院を紹介し了承を得て通院介助をおこなっている。	利用者や家族の希望により、これまでのかかりつけ病院を継続して通院介助している。それ以外はグループホームの連携医院を紹介し了承を得て通院介助をおこなっている。	希望のかかりつけ医は継続支援されている。また、眼科や歯科の往診や、協力医療機関との24時間の体制が整えられており、適切な医療を受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、状態観察をおこない、気づいたことや異変があれば職場内の医療連携責任者(看護師)に報告・相談し、医療機関への受診やその他対応をおこなっている。	常時、状態観察をおこない、気づいたことや異変があれば職場内の医療連携責任者(看護師)に報告・相談し、医療機関への受診やその他対応をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、利用者の情報(特に認知症状による問題点など)を詳しく報告し、入院中も混乱なく治療ができるよう病院関係者と連携をとっている。また、経過を見ながら、カンファレンスをおこない、早期退院ができるよう調整をおこなっている。	入院の際には、利用者の情報(特に認知症状による問題点など)を詳しく報告し、入院中も混乱なく治療ができるよう病院関係者と連携をとっている。また、経過を見ながら、カンファレンスをおこない、早期退院ができるよう調整をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの方針や指針・同意書を作成しており、時期をみて、家族を中心に話し合いをおこなっている。また、地域の医療機関や事業所側・家族など利用者を取り巻く関係者とも連携作りをしている。	ターミナルケアの方針や指針・同意書を作成しており、時期をみて、家族を中心に話し合いをおこなっている。また、地域の医療機関や事業所側・家族など利用者を取り巻く関係者とも連携作りをしている。	入居時に説明を行い、同意を得ている。現在も主治医や家族、職員と話し合い、連携を取りながら、ターミナルケアをチームで支援し、取り組まれている。研修やマニュアルの見直しも、随時行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生時の動きなどのマニュアルを作成しており、研修会などで対応の確認や応急処置の勉強会などをおこなっている。	急変時の対応や事故発生時の動きなどのマニュアルを作成しており、研修会などで対応の確認や応急処置の勉強会などをおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防火訓練の実施、今年度より毎月15日に夜間災害を想定し、職員3名で避難訓練を実施している。毎日夜勤者は申し送り時に火災時の動きの確認を行っている。	日中・夜間を想定した年2回の防火訓練のほかに、毎月15日に自主避難訓練をおこなっている。年2回の訓練には地域の消防団や民生委員などの参加もあり、協力体制をとっている。	年2回の避難訓練や夜間想定自主訓練を毎月実施されている。原発や水害等の災害訓練も行いポートも準備されている。また、地域の防災研修にも参加されている。しかし、近隣の住民には協力を依頼しているが、連携体制までには至っていない。	近隣住民から、より協力を得られるよう、マニュアルの充実や具体的な連携体制作りなどに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(かえで棟)	自己評価(あかり棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勤務の終了時、言葉かけ挨拶チェック表に毎日反省を記録し、接遇には気を付けている。また、その都度不適切な言葉かけに対しては、注意し合うようにしている。	利用者1人1入を尊重し、プライドを傷つけない対応を心がけている。接遇の勉強会をおこなったり、職員は利用者への対応を振り返るようにしている。	接遇研修が年に1回行われ、自己チェックや職員同士で振り返りが行われている。入居者を尊重した言葉かけや対応が出来るように日々努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で何をしたい・どうしたい等希望や思いを引き出すように働きかけている。おやつや飲み物、その日の洋服を選んでもらう等、自己決定の支援を行っている。	日々の生活の中で、要望や思いを言えるように働きかけている。食事や飲み物などを選択できるように工夫し(バイキング料理など)、自己決定の場を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせる事を優先しホームから出て行こうとされる方には無理にとめないで、職員が付いて行き、自由にしてもらっている。天気の良い日にはドライブにお連れすることもある。	1日の流れはあるが、その日によって利用者の希望でドライブをしたり、リハビリにお連れしたり、希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装などの好みをいえる方は、援助しその人らしい身だしなみができるようにしている。身の回りのことができない方は、その人にあった身だしなみを考え対応している。	髪型や服装などの好みをいえる方は、援助しその人らしい身だしなみができるようにしている。身の回りのことができない方は、その人にあった身だしなみを考え対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、盛り付け、食後の片付けは利用者と一緒にしている。彩りには気を付け美味しそうと思って頂ける様にミキサー食の盛り付けも工夫し喜んでもらっている。	食事の下ごしらえ(野菜きりなど)や後片付けを利用者と職員でおこない、同じ食卓で食事をとっている。得意な作業をしてもらい力を発揮できる場を作っている。	料理の下ごしらえや片づけを職員と一緒に行われている。また、楽しみのある食事ができるように、ミキサー食などでも彩りや盛り付けに工夫されている。食事中は、職員と会話を楽しみながら食事をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや状態に合わせて、ゼリーにしたり、容器を変えたりして水分補給に努めている。少ない方にはチェック表を作り、職員全員が把握できるようにしている。	利用者の食事状況に合わせて、形態や量、水分量の調節をおこなっている。その方の嗜好や栄養面も考え、摂取量が少ないときは、その都度、工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、チェック表もある。介助が必要な方は、職員がおこない、清潔保持に努めている。	毎食後、口腔ケアを実施し、チェック表もある。介助が必要な方は、職員がおこない、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(かえで棟)	自己評価(あかり棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄を記録し、排泄パターンを見つけ誘導を行っている。失禁を減らすと共に必要以上にオムツを使わない様に援助を行っている。	利用者個別の排泄パターンの把握をするため、記録をとり、分析している。誘導や介助をおこない、失禁を減らし必要以上にオムツを使わず、自立した排泄を支援している。	排泄パターンを把握し、オムツを出るだけ使用しないように、トイレに誘導されている。夜間も時間トイレ誘導し、個別の排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、有無を把握。水分や運動・食物繊維の多い食事・乳製品などを摂ってもらい、排便を促している。改善がみられない時は便秘薬で調整している。	排便チェック表を作成し、有無を把握。水分や運動・食物繊維の多い食事・乳製品などを摂ってもらい、排便を促している。改善がみられない時は便秘薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に毎日午後より入浴を実施している。外出された方は夕食後に入浴してもらっている。入浴時は昔話や好きな歌を歌ってもらうなど楽しんでもらっている。	基本的に毎日、入浴を実施しており、職員の都合に合わせてではなく希望を聞き、入浴されている。入浴できないときには、清拭・更衣等で清潔保持に努めている。	入浴は午後から行っているが、入居者の状態や状況に応じて柔軟な対応が行われている。また、毎日入浴ができるように準備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の居室で思い思いに休息をとられたり、体調を見ながら職員が介助し、休息を取ってもらっている。利用者1人1人の状態に合わせた対応をしている。	個人の居室で思い思いに休息をとられたり、体調を見ながら職員が介助し、休息を取ってもらっている。利用者1人1人の状態に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や用量など薬局からの説明書を確認し、把握している。個別での医療ノートを作成し医師や薬剤師からの注意などあれば記入し、職員全体で確認している。	薬の内容や用量など薬局からの説明書を確認し、把握している。個別での医療ノートを作成し医師や薬剤師からの注意などあれば記入し、職員全体で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の嗜好や生活歴を把握し、現在の状況とあわせ、手芸や工作・季節の飾りつけなどそのかたに合った楽しみ事や役割を促すようにしている。	以前の嗜好や生活歴を把握し、現在の状況とあわせ、手芸や工作・季節の飾りつけなどそのかたに合った楽しみ事や役割を促すようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや毎月の行事など外出できる機会を設け、利用者の希望や体調を見ながらお連れしている。	ドライブや毎月の行事など外出できる機会を設け、利用者の希望や体調を見ながらお連れしている。	個別に買い物に行ったり、外食やドライブ等、入居者の希望に応じて外出支援をされている。また、天気の良い日は、庭に出て散歩したり戸外へ出るよう努められている。	

自己	外部	項目	自己評価(かえで棟)	自己評価(あかり棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力や希望により、本人にお金を持ってもらうこともあるが、現在は所持されていない。外出の際に、こちらで預かっているお小遣いを使われる。	利用者の管理能力や希望により、本人にお金を持ってもらう場合もあり、現在1名の方が自己管理されている。外出時に買い物されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話はリビングに設置しており、いつでも自由に使用できるようにしている。しかし、ほとんどの利用者が1人では使用できないため職員が取りついでいる。	電話はリビングに設置しており、いつでも自由に使用できるようにしている。しかし、ほとんどの利用者が1人では使用できないため職員が取りついでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや台所など共有スペースには、季節感のある飾り付けや花、ソファ、テーブルを置き、生活感のある安心できる空間作りを心がけている。室温調整や明るさなどもその都度、調節している。	リビングや台所など共有スペースには、季節感のある飾り付けや花、ソファ、テーブルを置き、生活感のある安心できる空間作りを心がけている。室温調整や明るさなどもその都度、調節している。	玄関には入居者の表札と、季節に応じた花が大きな壺に生けられている。また、廊下やリビングには写真や創作作品が、配置も考慮し飾られている。室温や湿度も適切に調整され、掃除もこまめに行われ、ホーム全体に、清潔感が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには畳の部屋もあり、思い思いの場所で過ごしていただける環境づくりをしている。	共有スペースには畳の部屋もあり、思い思いの場所で過ごしていただける環境づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際し、できるだけ使い慣れたものを持ってきてもらい、居心地よく生活できるように配慮している。しかし、身体状況や認知状態で今まで使っていたものが使用できない場合も多くなっている。	入居に際し、できるだけ使い慣れたものを持ってきてもらい、居心地よく生活できるように配慮している。しかし、身体状況や認知状態で今まで使っていたものが使用できない場合も多くなっている。	部屋には表札があり、畳とフローリングの部屋がある。入居者と家族が話し合いながら、写真を飾ったり、ソファを置いたり、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレなどがわかりやすいように明記し、段差には手すりを設置し、通路には障害物になるような物を置かないようにすることで安全に自立した生活ができるよう配慮している。	自室やトイレなどがわかりやすいように明記し、段差には手すりを設置し、通路には障害物になるような物を置かないようにすることで安全に自立した生活ができるよう配慮している。		